

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年3月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679600082
法人名	医療法人沖繩徳洲会
事業所名	グループホーム ゆんぬ
所在地	鹿児島県大島郡与論町茶花302番地5 (電話) 0997-81-3919
自己評価作成日	平成27年1月16日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業主体である医療法人と医療連携体制を整え、利用者、家族等の安心に繋がっている。
特に個々の自立支援と地域との交流に力を入れている。
本人の能力に応じて、今出来る事がいつまでもできるように声掛け、励ましながら行っている。
地域の方が気軽に立ち寄れるような雰囲気づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島では唯一のグループホームであるゆんぬ(与論)は、平成17年にマチギ棟(松)を開設、続いて23年にダイ棟(竹)を増設し2ユニットで運営されている。島の方言を取り入れ、温か味のある呼び名になっている。町の中心市街地に位置し近くには郵便局や、小学校、病院、商店街などがあり利便性の高い環境にある。

脳活性化のレクリエーションへの取り組みに力を入れ、広々とした廊下の壁やリビングには職員と共に作成した貼り絵などの作品や行事の写真が、所狭しと飾られている。利用者が楽しみや生き甲斐を持って日々、生活している様子が伝わる工夫をしている。写真や作品を通して記憶を呼び戻し、利用者たちの楽しい思い出話に繋がるきっかけ作りにもなっている。

職員は内部の研修や勉強会のみならず、母体である医療法人でも学びの場を得ており、教育の機会を多く持ちサービスの質の向上に繋げている。

日常的な健康管理もホーム支援の定期受診や島外から他科受診の往診などで対応しており、医療連携体制も整い、緊急時の対応もできている。

管理者を中心に職員は利用者の人格の尊重や傾聴を重んじ、少人数なればこそのアットホームできめ細かなサービスの実践に努めているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に皆で理念を唱和し共有して実践に繋げている。	25年度に理念の見直しを行い、利用者の生活歴を把握し、傾聴を重んじるケアに努めている。常に目に付く場所への掲示や朝礼での唱和を通して職員全員で共有し意識づけを行い、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（ヨロンマラソンの応援等）に積極的に参加している。又事業所の行事には、地域の方に出演してもらうなど交流を深めている。	与論マラソンへの応援参加は恒例になっている。開設時から偏見を無くする為に喫茶店などに利用者連れて行き交流の機会を積極的に持つ努力をしている。野菜の差し入れや体験学習、ボランティアの受け入れなど地域との交流の幅を広めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	小、中、高校生との交流や職場体験を受け入れている。認知症について理解してもらう為地域包括センターに依頼しキャラバンメイトの育成に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回推進会議を行い事業所の活動報告や意見等を聞きサービス向上に繋げている。話し合いの内容は議事録により職員間で共有し日々のケアに役立てている。	家族・行政・地域代表他の出席による定期開催である。出席者や家族からの意見、要望の中で、利用者の急変時対応に関する同意書の作成や、西日対策、玄関に続く砂利路面の改善などハード面での対策も課題に挙がっており、改善に向けた話し合いを続けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の1人に推進会議役員をお願いし連携を密に取っている。日々の業務の中で疑問に思うことは相談し指導を受けている。	運営推進会議への出席でホームの取り組みを積極的に伝えながら、相談事への適切な助言を貰うなどし、双方で情報の共有を図り日頃から協力関係を築ける様に努力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティングや申し送りなどで確認し合い勉強会などへも積極的に参加し正しい理解に努めている。玄関の鍵錠は夜間のみ行っている。	職員は身体拘束に依る弊害を正しく理解している。管理者は現場での気付きは都度、注意を促している。ミーティングを通した勉強会や法人の研修会にも参加するなどし、拘束に関する意識や知識を深めている。日中は玄関の施錠はせず、職員間の見守りと連携で束縛のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士注意し合いミーティング等により言葉や態度など確認し合っている。又勉強会へも積極的に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	直接専門家から話を聞く機会や勉強会に参加する機会も少ないが、資料をもとに勉強している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろんその都度説明を充分行い、不安や疑問なく理解納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情などは苦情ノートに記載し全員で確認し対応方法を検討している。何でも相談しやすいよう普段からコミュニケーションを取るよう努めている。又事業所の本部の方で家族のアンケートを取り職員間で話し合い運営に反映させている。	家族会は年2回開催し、内1回は忘年会を兼ねて食事会形式を採用している。大勢の参加を得て相談や要望の聞き取りの大事な機会になっている。利用者からの苦情対応はノートに記し、全員で検討を重ね改善に向けた支援に繋げている。毎年、本部で家族アンケートを行い、出された意見や要望はサービスに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議を月1回行っている。毎週1回朝礼に病院三役が参加し管理者を交えて意見交換を行っている。月に1回のミーティングを行い議事録は病院三役に確認してもらっている。	月1回のミーティングでは、ケアの仕方などの業務改善に向けた意見や提案の他、現場の困り事など全員で話し合い、サービスの向上に繋げている。法人内の異動も多いが常に職員間の情報の共有を重視している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人規定により給与改定を行い昇給等により職員のやる気を引き出している。又有給は出来るだけ利用できる様配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>パート、正職員を区別せず研修会には全員参加を促し、参加出来ない職員には資料を提供し質の向上に努めている。特定の職員のための参加にならない様勤務調整を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>離島の為GHは当施設のみだが、島外のGHと連絡を取り合い質の向上が図れるよう努力している。又当施設の母体である病院での勉強会などは積極的に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に本人と面談を行い関係機関から資料などを参考にしながら、不安、要望、困りごとなどを聞きとり安心して利用できるよう説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に面談を行い不安、要望、困りごとなど聞きとり安心できる様説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い等を確認し、本当に必要なサービスは何かを話し合いながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴を把握し、本人のペース、希望を最優先と考え本人の立場にたち信頼していただける様努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を一番に考え、面会時等は本人の生活の様子を知らせ、要望等を職員に伝えやすい雰囲気を作っている。又本人と家族が気兼ねなく話をしたり接する事が出来るよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に居た時と同様に接する事が出来るよう面会時などは快く迎え話やすい雰囲気作りに努めている。又美容、理容は行きつけの場所に送迎したり来てもらう様にしている。	親戚や昔からの知り合いの面会があり、遠方の家族からの電話の取り次ぎや手紙なども関係継続に繋がっている。盆、正月は外泊し自宅で家族と過ごす利用者もおり、ホームに入所後もこれまでの関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士それぞれの関係や性格など考慮し座席の位置など決めている。又職員が間に入るなどして良好な関係が保てるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後長期入院となった場合など病院に行く際見舞いをしている。又必要時に相談し易い様家族に対しても日頃から会った時には挨拶をしたり声を掛けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り自宅での生活に近づけるよう日々の会話の中から聞きとり把握している。困難な場合は家族から昔の様子などを聞き本人の立場に立って考えている。	利用者からは日々の触れ合いの中で思いや意向の把握に努めている。面会や入居時に得た家族からの情報は、介護ケアノートで共有し、本人の想いを尊重した生活が出来るように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、本人又は家族、関係機関から情報を集め職員間で共有し入所後のケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズム、体調の変化を把握し今出来ることは何かどんな事が難しくなってきたかなど、日々の記録から確認出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングにより現状の課題について確認し必要時には家族に連絡をとり相談し今後のケアの方向性を決めている。又新規計画作成後は本人家族と共に計画内容を確認しそれぞれの同意のもと実践に繋げている。	本人、家族の要望を採り入れながら、日頃の暮らしぶりをもとに課題分析を行い、ミーティング時に職員全員で話し合っている。定期的にプランの実施状況を確認し、状態変化に応じ見直しを行い、個々の現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し朝の申し送りやミーティング等で話し合い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望時や必要時主治医と相談しながら定期的にリハビリ、通院、美容、理容、買い物、自宅への送迎など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や病院の協力を得て消防訓練BSL訓練を行っている。又行事の際は地域の方に演芸等への出演等協力して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医になっており殆どの利用者が月1回受診し必要に応じて検査や薬の調整などを行い安定した状態で生活できている。又体調変化時には時間、曜日を問わず相談できる。	ホーム支援の定期受診の他、定期的に島外からの他科受診の往診にも対応しており、日常的に適切な健康管理が行われている。受診結果については家族に報告し、情報の共有が出来ている。安心に繋がる医療連携体制も整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が常勤し、介護職員がいつでも相談できる体制になっており良好な協働関係が築けケアにも反映されている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>常に病院関係者と情報を交換し入退院の際スムーズな支援ができています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時重度化した場合の対応について事業所で出来る範囲を説明し理解して頂いている。</p>	<p>入居時に重度化した場合や終末期のあり方については、ホームとしての方針を説明し、家族には同意を得ている。ホームで出来る最大限の支援に取り組み、状態変化に応じ主治医や家族と方向性を共有し、医療に繋いでいる。島の風習として、最期は自宅で看取るケースが多くある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>AEDの勉強会や応急処置の訓練を行い急変時に備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に災害避難訓練を行い災害時に備えている。夜間訓練などは実際の人員体制で行い職員全員が訓練出来るよう交代で実施している。</p>	<p>消防署立会いで、昼夜間想定 of 災害訓練を年2回行っている。又、地震、津波を想定して島の一番高い場所に避難するなどの自主訓練も実施している。今後は近隣への協力の呼び掛けの継続と災害時の水や食料などの備蓄の検討をする方向である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬意を持ち、その人の誇りやプライドを大切に接している。	法人全体の勉強会も含め、内部研修もしている。職員は常に利用者に敬意を払ったケアに努めており、排泄時の羞恥心への配慮や名前の呼び方など言葉使いに気を付け、信頼関係を大事にした支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を伝え自分で決める事ができるようゆっくり話を聞き話易い関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人のペースや思いを最優先とし職員の都合を押しついたり無理強いをしないよう努めている。又希望によって外出等の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望によってなじみの美容室、理容室に送迎したり訪問してもらったりしている。行事の際は髪を整え正装しコサージュを付けるなどお洒落を楽しめるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜のつくろいや皆でたこ焼き作り、クッキーの型ぬきをするなど食事作りにも参加できるように支援している。又可能な方には皿拭き、盆拭き、テーブル拭きなど役割として行ってもらっている。	季節の野菜を育て、収穫したものが食卓に並び、季節感を楽しんでいる。島は外食の習慣はあまり無いが、ドライブや遠足などには手作りおやつや弁当を持参するなど、目先を変えて提供している。台拭きや調理の下ごしらえなどは利用者の張り合いに繋がっている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の変化に合わせて主治医や栄養士と相談しながら食事量、形態、飲水量を調整している。毎食、食事量や飲水量を記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きを自立、一部介助で行い清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	体調管理表に排泄パターンを記録しその人に合った介助方法で支援している。殆どの方が、日中はトイレにて排泄出来るよう支援している。	排泄チェック表の活用で個々のパターンを把握し適時の声掛けで日中はトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルで対応する利用者もいるが、排泄のパターンと習慣を活かし、トイレでの排泄の自立に向けた支援に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維物の多い野菜を多くとり水分量を把握し体操などで体を動かす機会をつくるなどしてなるべく自然排便ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日を決めずに体調希望にそって入浴している。（職員の出勤時間の都合で希望どうりできない時間帯もある）又自分でできる事は見守り、出来ない事だけ介助している。	特に曜日は決めておらず、無理強いをすることも無く、体調や希望に合わせてゆったりと入浴が楽しめる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩や睡眠は自由に取れるようにしている。又生活リズムが自然に整うように日中は自ら楽しく参加してもらえようなレクレーションを工夫したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬状況を確認出来るよう個々の記録簿に服用中の薬情報を綴じている。又服薬の間違いが無いよう毎回2人体制で確認し服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などを参考に役割や楽しみが行えるようにしている。又ドライブなど外出の機会を作ったり地域の行事に参加するなど楽しみごとが増えるようにしている。		
		○日常的な外出支援		近くのスーパーに日用品を買いに出かけ	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候に合わせて買い物やドライブなどに出掛けられる様支援している。	たり、島内一周のドライブに出掛ける事もある。集落の敬老会出席や小学校の運動会を見学に行くなど、折に触れ、外出の機会を多く持てるように努めている。車椅子の利用者もリフト車を借り、外出の機会を持てるようにしてホーム外の生活の時間も大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の能力に合わせ支援している。買い物が可能な方については希望時買い物に同行している。難しい方については、必要な物は職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時電話をかけたり、家族からの電話を取り次いだりしている。又島外に住む家族からの手紙の代読や入居者の書いた手紙をポストに入れる等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりや風通しがよく静かで居心地がよいように作られている。又空調管理にも気を付け入居者が快適に過ごせるようにしている。玄関ホールには季節の花を飾り月ごと（季節ごと）の室内装飾を利用者の手作りでやっている。	ホーム全体が掃除が行き届き清潔である。対面キッチンを利用者の見守りに配慮した造りである。食事時はBGMに島唄を流すなど、リラックスできる工夫をしている。行事の写真、余暇活動の作品が壁一面に貼られ、利用者の日常生活の様子が伺われる。大型テレビやソファの設置もあり個々の時間を自由にゆったり過ごせる共用空間になっている。	
		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり	気の合う同士で玄関前のソファ		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外のロビー向上で玄関前のスペースでくつろいだり和室でTVを観たり思い思いに過ごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の希望する物や使い慣れた物は自由に持ち込み居心地良く過ごせる様工夫している。</p>	<p>手作りの作品や家族写真などを飾ったり、テレビや馴染みの筆筒などを持ち込んでいる。個別性があり、自宅の一室の様に安心して暮らせるプライベート空間が保たれている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内は全てバリアフリーになっており自由に安全に移動出来るようになっている。洗面所やトイレ等には分かりやすい様絵や昔から使い慣れた表現を用いるなど自立した生活が出来るようにしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない